

ゲノムと時代を語るトークセッション

ゲノム談義

11月9日(土) 14:00 ~ 16:00

会場 7F **みらいCANホール**

入場無料。当日参加を希望の方はお早めに受付までお申し出ください。

ゲノム研究は21世紀の社会において、最も重要なテーマのひとつとされています。「ゲノム談義」では、気鋭のオピニオンリーダーをゲストに迎え、最前線に立つ研究者を交えて、ゲノム研究のもつ時代的意義・社会的課題について闊達に語り合おうと思っています。

東京会場では「ゲノム研究が人間と生命について教えてくれること」というテーマを設け、議論を進める予定です。ゲノム研究の進展によって、人間の振り舞い(行動)はどこまで理解できるのか、生物進化はどこまで理解できるか、そもそも生命とは何か、などといった問題をとりあげます。でも、当日の流れ次第で、議論はいろいろな方向へ広がることでしょう。どうぞ楽しみに。(加藤和人)

パネリスト



佐倉 統 (東京大学大学院情報学環助教授)

1960年東京生まれ。東京大学文学部心理学科卒、京都大学大学院理学研究科霊長類学専攻博士課程修了。理学博士。三菱化成生命科学研究所特別研究員、横浜国立大学助教授を経て現職。チンパンジーの生態調査などの科学史や科学普及の分野に転進し、科学技術と社会の関係について考察している。著書に「現代思想としての環境問題」「遺伝子vsミーム」「進化論の挑戦」「進化論という考えかた」ほか。



谷村志穂 (作家)

1962年札幌生まれ。北海道大学農学部応用動物学専攻卒。「結婚しないかもしれない症候群」「アクアリウムの鯨」「十四歳のエンゲージ」などベストセラー発表のかたわら、進化生物学を中心としたサイエンス・エッセイ集「恋して進化論」、動物学者河合雅雄氏との対談集「ひとはなぜ愛するのか」などを発表。デズモンド・モリスとの公開対談、新聞紙上で佐倉統と科学論を巡る往復書簡なども行なう。最新刊は長編小説「海猫」。



小原雄治 (国立遺伝学研究所教授)

1951年京都生まれ。1974年京都大学理学部卒業、1979年名古屋大学大学院理学研究科博士課程中退。名古屋大学理学部助手、英国MRC分子生物学研究所客員研究員を経て1996年国立遺伝学研究所教授、2002年より同・副所長。理学博士。



美宅成樹 (東京農工大学教授)

東京大学理学部物理学科卒業(同大学院理学研究科物理専攻)、東京大学工学部物理工学科助手、東京農工大学工学部助教授を経て同大学工学部生命工学科教授、総合情報メディアセンター長を併任。専門は、生物物理、バイオインフォマティクス。アミノ酸配列からタンパク質の情報抽出・予測に興味を持っている。

進行



加藤和人 (京都大学人文科学研究所助教授)

1961年京都生まれ。京都大学大学院理学研究科博士課程修了。理学博士。ケンブリッジ大学研究員、JT生命誌研究館主任研究員を経て現職。現在の専攻は、現代科学史・科学コミュニケーション。2002年4月よりHUGO(国際ヒトゲノム機構)倫理委員会委員。

